

最後の入学式に62人

来年度閉校へ募集停止の佐保短大



2024年度の新生をもって学生募集を停止した奈良佐保短大(奈良市鹿野園町)で2日、同校として最後の入学式が開かれた。保護者や教職員らが見守る中、2学科計62人の新入生は期待に満ちた表情を見せた。

同短大は1931年、奈良女子高等師範

奈良佐保短大の池内ますみ学長(手前)に新入生代表として宣誓書を手渡す奈加優芽音さん

奈良市鹿野園町で

学校(現・奈良女子大)の同窓会が開設。「ほっとかない教育」をモットーに掲げ、学習だけでなく、学生の生活や個人的な悩みにまでクラス担任が寄り添うことを特徴としてきた。だが少子化と4年制大学への進学志向の高まりから定員割れが続き、23年度の新入生が近年では初めて100人を下回ったのをきっかけに募集停止が決まった。今回の新入生が卒業する25年度末で閉校する見通しだ。

この日は池内ますみ学長らの式辞の後、保育士などを養成する地域ごとも学科の学生有志が歓迎の歌や演奏を披露。新入生代表として宣誓した生活未来科の奈加優芽音さん(18)は「奈良市は『ディサイバ』に通う祖母の笑顔を見て、介護福祉士になろうとこの学校を選んだ。閉校は残念だけれど、少人数の良さもあると前向きに捉えた」と話した。

保育士志望の長女(18)が入学するため夫婦で訪れた橿原市の石橋愛さん(44)は「すぐく面倒見のいい学校と聞いて、ぜひここに通わせたいと思った。最後の代の学生として精いっぱい頑張ってほしい」と期待を寄せた。

【稲生陽】